

# 子育て支援講座から見る親と子がつながる音楽活動の重要性—きょう育の和講座「みんなで歌おう！乳幼児から始める情操教育」の事例から—

## The Importance of Musical Activities for making Parents and Children's good human relationships through the Parenting Support Lecture: In the case of < Let's sing Everyone! The Cultivation Starting from Early Childhood >

伊原木 幸馬

Ibaragi Yukima

### 要 約

保育者養成校及び教員養成大学には子育て支援施設を有する高等教育機関が多数存在する。本学においても、和歌山市と連携した『ふれ愛ルーム木のおうち』という施設があり、子育て支援活動に熱心に取り組んでいる<sup>1</sup>。ここでは、定期的で開催している子育て広場や子育て支援講座があり、筆者は子育て支援講座の1つである「きょう育の和講座」で音楽活動をメインにした講座を試みた。受講した保護者を対象に質問紙調査を行い、子育て支援講座において親と子がつながるための音楽活動の重要性を導き出すことができた。

### はじめに

未就園児及び未就学児をもつ親は、子どもと一緒にほとんどの演奏会に入場できなかったり、公演によっては親子室での鑑賞が強いられたり、生演奏を楽しむことが難しい現状にある。しかし、子どもと共に音楽を楽しみたいと感じたり、子どもに音楽を肌で感じさせたいと考えたりする親は数多く存在する。

本研究の目的は、本学で開催している子育て支援講座での音楽活動を通して、親と子が共に参加でき、音楽を楽しむ講座を提案し、その音楽活動の重要性を探ることにある。

### 1. 子育て支援と音楽について

#### 1-1. 子育て支援について

まず、平成27年4月に子育て支援についての新しい制度ができ、内閣府は『子ども・子育て支援新制度』の中で次のように述べている。

「子どもの年齢や親の就労状況などに応じた多様な支援を用意し、必要とするすべての家庭が利用できる支援を目指しています。」(内閣府政府広報オンライン)

次に、笹川(2014)は子育て支援には、次の3つの機能が含まれていると述べている。

「①親が行う子育てを支援する、②親の育ちを支援する、③子どもの育ちを支援する」

<sup>1</sup> 森下順子「子育て広場における学生の学びと課題」『信愛紀要』2012

これらの子育て支援についての解説から、次のようにまとめることができる。

子育て支援は、多様な支援を必要とする保護者がだれでも利用することができ、子育て・子育て・子育てを支援するということである。

## 1-2. 子育て支援における音楽について

幼児は遊びの中で音楽を聴いたり、歌ったり、リズムをとったりすることで、自然と音楽に触れている。梅本(1999)は、子どもにとって歌うことは音声の遊びであり、歌うことも音を鳴らすことも精神的な栄養になっている、と述べている。また、志村(1996)はメロディやリズムが正しくなくても、親が歌うものに勝るものはない、何気ない親子の触れ合いから子どもの情緒が豊かになり、親子の絆が深まってゆく、と述べている。

これらから、子育て支援講座を通して、親が子に身体でリズムをとったり、歌ったりする意義を確かなものとし、その機会を増やしたいと考える。次章では、子育て・子育てに焦点を当て、親と子が、ともに参加できるような、いわゆる「参加型」の講座を目標に、子育て支援講座での音楽による講座を実践し、その分析を実施する。

## 2. 研究の方法と分析

### 2-1. 研究の方法

筆者は、平成 29 年 12 月 18 日に、本学が定期的に開催している和歌山信愛女子短期大学きょう育の森『ふれ愛ルーム木のおうち』にて、音楽に関する子育て支援講座、きょう育の和講座「みんなで歌おう！乳幼児から始める情操教育」を行った。参加者は未就園児と保護者であり、当日講座に参加した親子の数は 27 組であった。参加講座のプログラムは以下の内容で構成した。

I. クラシックソング《もろびとこぞりて》

II. みんなで歌う子どもの歌

《虹の向こうに》《ありがとうの花》

III. からだを使って歌おう！和歌山のわらべうた《ちいちゃんばあちゃん》《しょうゆどぶどぶ》

大きく 3 つの活動に分け、いずれも筆者が弾き歌いを行いながら、活動を進めた。まず、I. クラシックソングでは参加し

た子どもたちや保護者にクリスマスの雰囲気味わってもらった。目的で《もろびとこぞりて》を選曲し、オープニング演奏とした。

また、II. では保護者にもできるだけ子どもの近くで一緒に歌ってもらいたい、との思いで明るく楽しい曲を 2 曲《虹の向こうに》、《ありがとうの花》を選曲し、複数回歌う時間を設けた。

さらに、III. では身体を使って歌い遊ぶプログラムを構成した。和歌山のわらべうたを 2 曲《ちいちゃんばあちゃん》及び《しょうゆどぶどぶ》を選曲し、模範歌唱を行った後、遊び方をレクチャーし、実際に親子で取り組んでもらった。

加えて、歌唱活動の間に乳幼児期における聴覚の発達段階の講座を織り交ぜた。

最後に、保護者を対象として、質問紙調査を行った。

参加した親子の数 27 組のうち、27 名からの回答を得ることができた。また、保護者らには研究材料として質問紙調査の結果を使用する旨を伝えており、同意を得ている。

### 2-2. 研究内容

質問紙調査の内容は、以下の 5 つに分けた。

- ①活動内容の満足度を測るための質問
- ②和歌山のわらべうたを知りたいかどうかの質問
- ③今後、音楽の子育て支援講座に参加したいかどうかの質問
- ④音楽の子育て支援講座に希望する内容についての質問
- ⑤意見や感想の自由記述

質問①～③は、丸を付して回答できるようにし、④、⑤は記述できるように作成した。回答結果の詳細は次項で述べる。

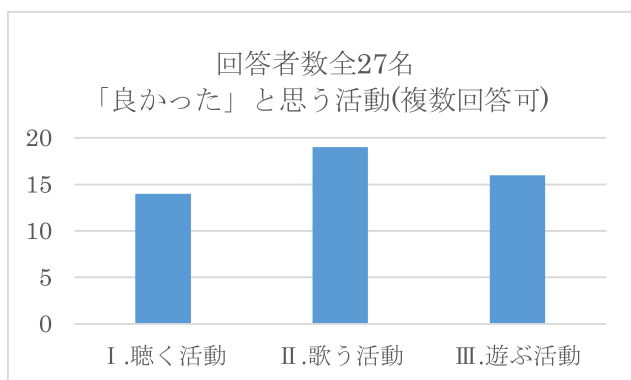
### 2-3. 結果と考察

質問紙調査の結果について以下にまとめる。

まず、①活動内容の満足度を測る質問に関して述べる。

“I. クラシックソング《もろびとこぞりて》を聴く活動”、“II. 子どもの歌《虹の向こうに》、《ありがとうの花》と一緒に歌う活動”、“III. わらべうた《ちいちゃんばあちゃん》、《しょうゆどぶどぶ》と一緒に歌い遊ぶ活動”を含む、本日の講座で良かったと思う活動に○を付してもらった。その結果、“I. クラシックソングを聴く”が良かったと○を付けた人は 14 名、“II. 子どもの歌と一緒に歌う活動”が良かったと○を付けた人は 19 名、“III. わらべうたと一緒に歌い遊ぶ活動”が良かったと○を付けた人は 16 名となった(次頁図 1)。

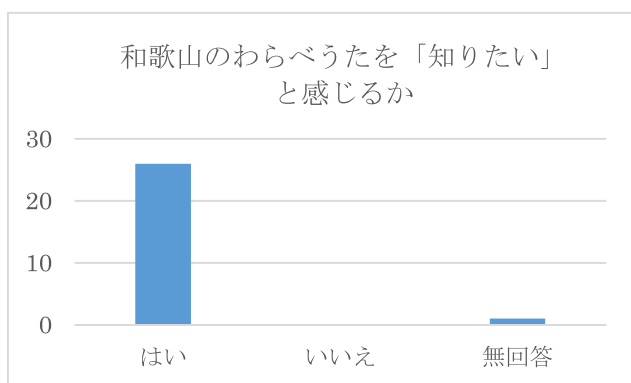
「図1. 活動満足度調査」



この結果から、全体的に見ると、3つの活動の全てにおいて、参加者(27名)の半分以上が「良かった」と感じているが、特に、保護者は子どもと一緒に「歌う」活動が最も満足であると感じていることが読み取れる。

次に、②和歌山のわらべうたを知りたいかどうかの質問に関して述べる。本講座では、和歌山のわらべうたである《ちいちゃんばあちゃん》及び《しょうゆどぶどぶ》の2曲を用いて、歌い方並びに遊び方をレクチャーした後に親子で歌い遊んだ。しかし、保護者は2曲とも知らない様子であった。そのため、「和歌山のわらべうたを知りたいかどうか」を問うた。その結果、「はい」(知りたい)の方に○を付けた者が26名、「いいえ」は0、無回答者が1名であった(図2)。

「図2. 和歌山のわらべうた調査」

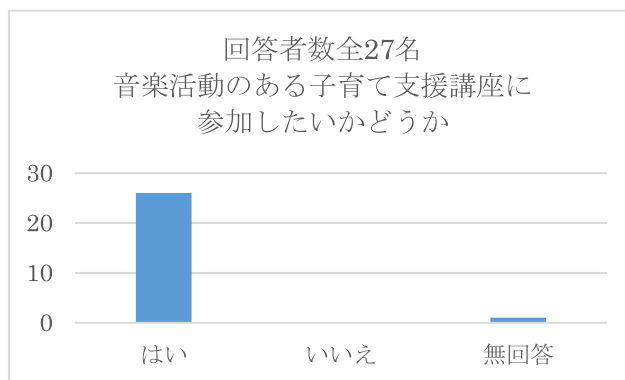


この結果から、地元和歌山の文化及び郷土を含むわらべうたを知りたいと考える保護者が圧倒的に多いと考えられる。

3つ目に、③今後、音楽の子育て支援講座に参加したいか

どうかの質問について述べる。本講座では、「聴く」、「歌う」、「遊ぶ」等3つの活動ができるよう構成したプログラムであったが、このような音楽の講座があれば、また参加したいかどうかを問うた結果、「はい」(参加したい)の方に○を付けた者が26名、「いいえ」は0、無回答者が1名であった(図3)。

「図3. 子育て支援音楽講座希望調査」



この結果から、本講座の親も子ども共に参加できる音楽講座は初めて行われたようであるため、満足度が高く、また受講したいと思うに至ったのであると推測できる。これまで、親子に演奏を披露したり、親子が鑑賞したりする機会があったようだが、親子がともに参加できる「参加型音楽講座」は初めてのようだ。

4つ目に、④音楽の子育て支援講座に希望する内容についての質問に関して述べる。③の質問で「音楽の子育て支援講座を受講したい」と考える者を対象に以下の質問を投げかけた。(i)どのような曲を聴きたいか、(ii)どのような曲を歌いたいか、(iii)どのような曲で遊びたいか、これらの質問に数多くの回答が得られた。その結果、「(i)どのような曲を聴きたいか」では、季節の歌を聴きたい、クラシックを聴きたい、童謡を聴きたい、等の回答があった。また、「(ii)どのような曲を歌いたいか」では、子どもが覚えやすい歌を歌いたい、童謡を歌いたい、等の回答があった。さらに、「(iii)どのような曲で遊びたいか」では、わらべうたや手遊びなどの簡単な曲で遊びたい、等の回答があった(次頁表1)。

「表1. 音楽の子育て支援講座に希望する内容」

	音楽の子育て支援講座に希望する内容
聴きたい曲	(季節の歌) (クラシック) (童謡)
歌いたい曲	(子どもが覚えやすい歌) (童謡)
遊びたい曲	(わらべうた) (手遊び)

この結果から、“遊びたい曲”は今回のようなプログラムで継続することとし、聴きたい曲・歌いたい曲では共通して「童謡」の要求があったため、次回では、本講座では取り入れなかった童謡を取り入れるべきであると考えた。

最後に、⑤意見や感想の自由記述について述べる。記述欄には、たくさんの保護者の意見及び感想が記入されていた(以下表2参照)。

「表2. 意見や感想等の自由記述」

歌の合間に講座(話)があるのが聞きやすく、とてもよかったです。和歌山のわらべうたは初めて知りました。
子どもとのコミュニケーションの取り方が学べてよかったです。
とても楽しくてストレス発散にもなりました。
わらべうたをやりたいです。久しぶりに歌って楽しかった。
声を出して歌うととても気持ちよかったです。
色々な音楽を聴いて歌えるようになればと思います。
これからも一緒に歌ったり聴いたりしようと思いました。
とても楽しかったです。歌に感動しました。
先生の素敵な歌声に感動し、泣きそうになりました。小さい子がいると本格的なコンサートなどに行けないけれど、今日は子どもにいい音楽を聴かせてあげられてよかった。マンションでは声を出して歌えないけれど、思いきり歌えてストレス発散になりました。

本講座での3本の柱である“聴く”、“歌う”、“遊ぶ”の盛り沢山の音楽講座と保護者を対象とした質問紙調査を通して、周りを気にせず子どもと“一緒に”歌を歌ったり、わらべうたで遊んだり、活動的な講座が求められていることが明らかとなった。

### 3. まとめ

本研究の目的は、本学で開催している子育て支援講座での音楽活動を通して、親と子が共に参加でき、音楽を楽しむ講座を提案し、その音楽活動の重要性を探る点に置いた。

本論文では以下の流れで研究を進めた。

まず1-1.では子育て支援について、内閣府による解説及び笹川(2014)の論文を参考に、子育て支援の定義をまとめた。子育て支援は、多様な支援を必要とする保護者がだれでも利用することができ、子育て・子育て・親育ちを支援することであるとまとめることができた。

1-2.では子育て支援における音楽について、梅本(1999)や志村(1996)は、幼児にとって歌うことも、音を鳴らすことも精神的な栄養となり、親が歌うメロディやリズムが正しくなくても、それに勝るものはないのだ、と主張していたことを参考に、親が子どもに歌い聞かせる重要性を導き出した。

以上を念頭に置いて、子育て・親育ちに焦点を当て、親子のための参加型講座を目標に、子育て支援講座での音楽による講座を実践することは意義があるものと考えてに至った。

2-1.では、“聴く”、“歌う”、“遊ぶ”の3つの活動を盛り込み、親と子が積極的に音楽に触れることができるプログラムを構成した。

本研究で明らかにした「子育て支援講座から見る親と子がつながる音楽活動の重要性—きょう育の和講座『みんなで歌おう！乳幼児から始める情操教育』の事例から—」は、子育て支援講座(きょう育の和講座)での実践及びアンケートの分析結果を主軸に述べてきたものである。講座での講師は筆者であったが、さらには、学生が主体となって、親と子に“ともに”コーラスを楽しんでもらったり、楽器を演奏したりすることも、可能であると考えられる。その際に、本稿で述べた親と子がともに参加できる「参加型講座」において、親と子がつながる音楽活動の重要性を意識し、親と子を育んでゆくことが必要であると考えた。

### 5. 参考文献・資料

梅本 堯夫

1999『子どもと音楽』東京大学出版会

笹川 拓也

2014『地域社会における子育て支援の現状と課題：子育て支援制度の変遷と子育て家庭の現状について』川崎医療短期大学「川崎医療短期大学紀要」p.16



